

問題 No.48 退職給付費用・退職給付引当金の計算(2)

次の各問について答えなさい。

- 問1 確定給付制度において、退職給付見込額1,000、全勤務期間10年、全勤務期間における給与総支給額10,000と見積られた。第1期の給与支給額は600、第1期末の会社都合要支給額は30であった。
- 第1期の勤務費用は、期間定額基準に基づく場合、いくらになりますか。なお、所定の割引率及び残存勤務期間に基づき割引計算する際の第1期末における割引係数は0.7とする。
- 問2 X1年4月1日(期首)に入社し、3年間勤務した後のX4年3月31日に退職予定の従業員A氏には、退職時に300万円の退職一時金が支給されると見込まれている。この時、X3年3月31日決算時のA氏に係る退職給付費用はいくらになりますか。なお、退職給付見込額の各勤務期間への配分方法には期間定額基準を採用し、年金資産はないものとする。また、割引率は5%とする(円未満四捨五入)。

問題 No.48 【解答及び解説】

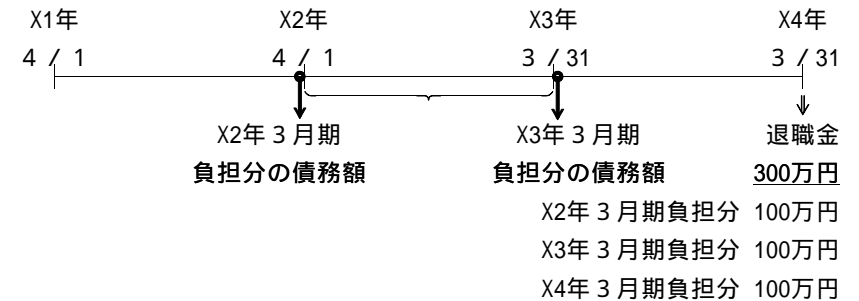
(答) : 問1 70 問2 997,732円

《解説》

- 問1 当期負担分の退職給付見込額
 当期負担分 = 退職給付見込額 ÷ 全勤務期間
 = 1,000 ÷ 10年 = 100
- 当期の勤務費用
 当期勤務費用 = 当期負担分の割引現在価値
 = 当期負担分 × 割引係数 = 100 × 0.7 = 70

- 問2 従業員A氏は3年後の退職時に300万円の退職一時金を受取ると見込まれている。A氏は3年間勤務した結果として300万円受領するのであるから、1年間の負担分は100万円ということになる。

従業員A氏の退職給付に係るタイム・テーブルは次のようになる。



そこで、X3年3月31日決算時のA氏に係る退職給付費用を求める。

- (1) 今期負担分(X3年3月期負担分)の勤務費用の計算

$$\frac{1,000,000}{(1 + 0.05)} = \underline{952,380.95円}$$

- (2) 前期負担分(X2年3月期負担分)の利息費用の計算

$$\frac{1,000,000}{(1 + 0.05)^2} = \underline{907,029.47円} \text{ ----- 前期末の退職給付債務}$$

$$\text{利息費用} = 907,029.47 \times 0.05 = \underline{45,351.47円}$$

(3) 当期(X3年3月期)の退職給付費用の計算

$$\begin{aligned} \text{退職給付費用} &= \text{勤務費用} + \text{利息費用} \\ &= 952,380.95 + 45,351.47 = \underline{997,732.4円} \end{aligned}$$

問題 No.49 退職給付費用・退職給付引当金の計算(3)

T社の当期の退職給付に関する数値は下表のとおりである。

(1) 退職給付債務に係る事項

・退職給付債務	580
・年金資産	540
・未認識数理計算上の差異	75
・未認識過去勤務債務(債務の減額)	100
・退職給付引当金	()

(2) 退職給付費用に係る事項

・勤務費用	27
・利息費用	13
・期待運用収益	13
・数理計算上の差異の費用処理額	18
・過去勤務債務の費用処理額(費用の減額)	14
・退職給付費用	()

(3) 前提条件等

・割引率	2.0%
・期待運用収益率	3.0%

問1 当期末の退職給付引当金の額はいくらになりますか。

問2 当期の退職給付費用はいくらになりますか。

問3 当期と前提条件は変わらないとすると、次期の期待運用収益はどの程度と予想されますか。

問題 No.49 【解答及び解説】

(答) : 問1 65 問2 31 問3 16.2

《解説》

問1 退職給付引当金は退職給付債務に係る事項(注記事項)より求める。

$$\begin{aligned} \text{退職給付引当金} &= \text{退職給付債務} + (-) \text{年金資産} \\ &\quad + (-) \text{未認識数理計算上の差異} \\ &\quad + (+) \text{未認識過去勤務債務(債務の減額)} \\ &= 580 + (-) 540 + (-) 75 + (+) 100 = \underline{65} \end{aligned}$$

問2 退職給付費用は退職給付費用に係る事項(注記事項)より求める。

$$\begin{aligned} \text{退職給付費用} &= \text{勤務費用} + \text{利息費用} + (-) \text{期待運用収益} \\ &\quad + \text{数理計算上の差異の費用処理額} \\ &\quad + (-) \text{過去勤務債務の費用処理額(費用の減額)} \\ &= 27 + 13 + (-) 13 + 18 + (-) 14 = \underline{31} \end{aligned}$$

問3 期待運用収益は、次式より計算する。

$$\begin{aligned} \text{期待運用収益} &= \text{年金資産} \times \text{期待運用収益率} \\ &= 540 \times 0.03 = \underline{16.2} \end{aligned}$$